

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成24年8月23日(2012.8.23)

【公開番号】特開2011-46290(P2011-46290A)

【公開日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-010

【出願番号】特願2009-196731(P2009-196731)

【国際特許分類】

B 6 2 J 23/00 (2006.01)

B 6 2 J 17/04 (2006.01)

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

【F I】

B 6 2 J 23/00 F

B 6 2 J 23/00 B

B 6 2 J 23/00 G

B 6 2 J 17/04

B 6 2 J 39/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月6日(2012.7.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

図1には、前記スイッチ41～45を取り付ける前のハンドルカバー16を示しており、後カバー18に形成されたスイッチ41～45の装着用開口のうち、ディマースイッチ41用の開口46、ホーンスイッチ42用の開口47、エンジン停止スイッチ44用の開口48が見られる。後カバー18には、ブレーキにブレーキオイルを供給するマスターシリンダ(図示しない)のオイル量確認用開口49、49が設けられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

図3において、ヘッドライト20は、上縁がメータバイザ25およびサブカバー19の前縁に対面当接し、さらに左右および下方が前カバー17に対面当接している。ヘッドライト20は、リフレクタ56を備え、リフレクタ56の焦点位置にはバルブ57を配置している。ヘッドライト20の前面はレンズ58で覆われる。レンズ58は、図20から理解できるように、上端が下端に対して後方に位置しているレンズ面を有する。前カバー17および後カバー18には、両者を互いに結合する際に使用されるボスや、両者をそれぞれヘッドライト20やメータユニット38に結合する際に使用されるボス等が形成される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

**【補正の内容】****【0041】**

図4において、後カバー18には、メータユニット38の後方側壁に対応する位置に、メータユニット38側に突出するボス61が形成される。このボス61には、メータユニット38に形成されるステー38A(図11に関して後述)の孔にメータユニット38側から通すことができる止めねじがねじ込まれる。さらに、後カバー18には、オイル量確認開口49に隣接して、前カバー17側に突出するボス62が形成される。このボス62は、後カバー18をバーハンドル7に結合するために設けられる(結合態様は図7に関して後述)。

**【手続補正4】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0054****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0054】**

図11において、正面視で外形が略逆三角形に形成されるメータユニット38は、計器部91と、計器部91の前方に位置するインジケータ表示部68とからなる。計器部91には、速度計92、残燃料計93、冷却水温計94、走行距離計95、および時計96を含む。速度計92はメータユニット38の中央後方寄り(図11では下寄り)、残燃料計93はメータユニット38の右前方寄り(図11では右上寄り)、冷却水温計94はメータユニット38の左前方寄り(図11では左上寄り)、走行距離計95および時計96は残燃料計93および冷却水温計94のほぼ中間部に、それぞれ配置される。

**【手続補正5】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0055****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0055】**

したがって、メータユニット38は、全体的に速度計92が配置される後方部で左右幅が狭く、複数の計器が左右方向に整列されている前方部で左右幅が広い逆三角形をなしており、特に、計器部91は、残燃料計93と冷却水温計94の指針を旋回可能にするため、左右前方(図11では左右上方)に張り出させた領域38a、38bを有する変形逆三角形となっている。そして、領域38aおよび38bの間、つまり張り出し部間に、インジケータ表示部68が設けられる。

**【手続補正6】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0073****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0073】**

また、垂直壁134によって速度計92が設けられた領域38cと冷却水温計94が設けられた領域38aとを明りょうに区画することができる。操作部101が設けられる上ケース102の張り出し部分104やインジケータ表示部68にも、同様に見返し部が設けられ、垂直壁134と同様の機能を有する。

**【手続補正7】****【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0074****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0074】**

張り出し部分 103 および張り出し部分 104 の前縁 103a、104a および後縁 103b、104b は、後カバー 18 に形成された屈曲面を示す線 170、171 や 172、173 と連続して、メータユニット 38 と後カバー 18 との連続性を感じさせる特有の外観を呈している（図 4 参照）。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0078

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0078】

図 13～図 17において、上ケース 102 と下ケース 106 との合わせ部は、例えば、図 16 を参照すると、上ケース 102 の下縁に形成された減厚部 148 と、減厚部 148 を両面から挟むように下ケース 106 の上縁に形成された溝 149 と、溝 149 の底部に収められ、組み立てられた状態では溝 149 の底部に向けて減厚部 148 で押圧されるシール 150 とからなる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0083

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0083】

図 20 は、ヘッドライト 20 の縦断面図である。ヘッドライト 20 は、上述のように、リフレクタ 56、バルブ 57、レンズ 58、およびバルブ 57 およびリフレクタ 56 を収容するヘッドライトハウジング 78 を有する。ヘッドライトハウジング 78 の頂部にはプラケット 79 が突出しており、プラケット 79 の前面には、前カバー 17 に形成されているボス 67 が対向している。プラケット 79 にはゴムブッシュ 174 が嵌め込まれ、このゴムブッシュ 174 に形成される孔を通して止めねじ 175 がボス 67 にねじ込まれる。プラケット 79 と同様のプラケットがヘッドライトハウジング 78 の左右に張り出して設けられ、止めねじを使って前記ボス 63 と結合される。ヘッドライトハウジング 78 の前端部には、レンズ 58 の後端部が結合されている。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

バルブ 57 の後方を覆うキャップ 180 がヘッドライトハウジング 78 の後部に取り付けられる。キャップ 180 の下部には、バルブ 57 に給電するためのケーブル（図示しない）が貫通可能な筒状のケーブル保持部 181 が形成されている。